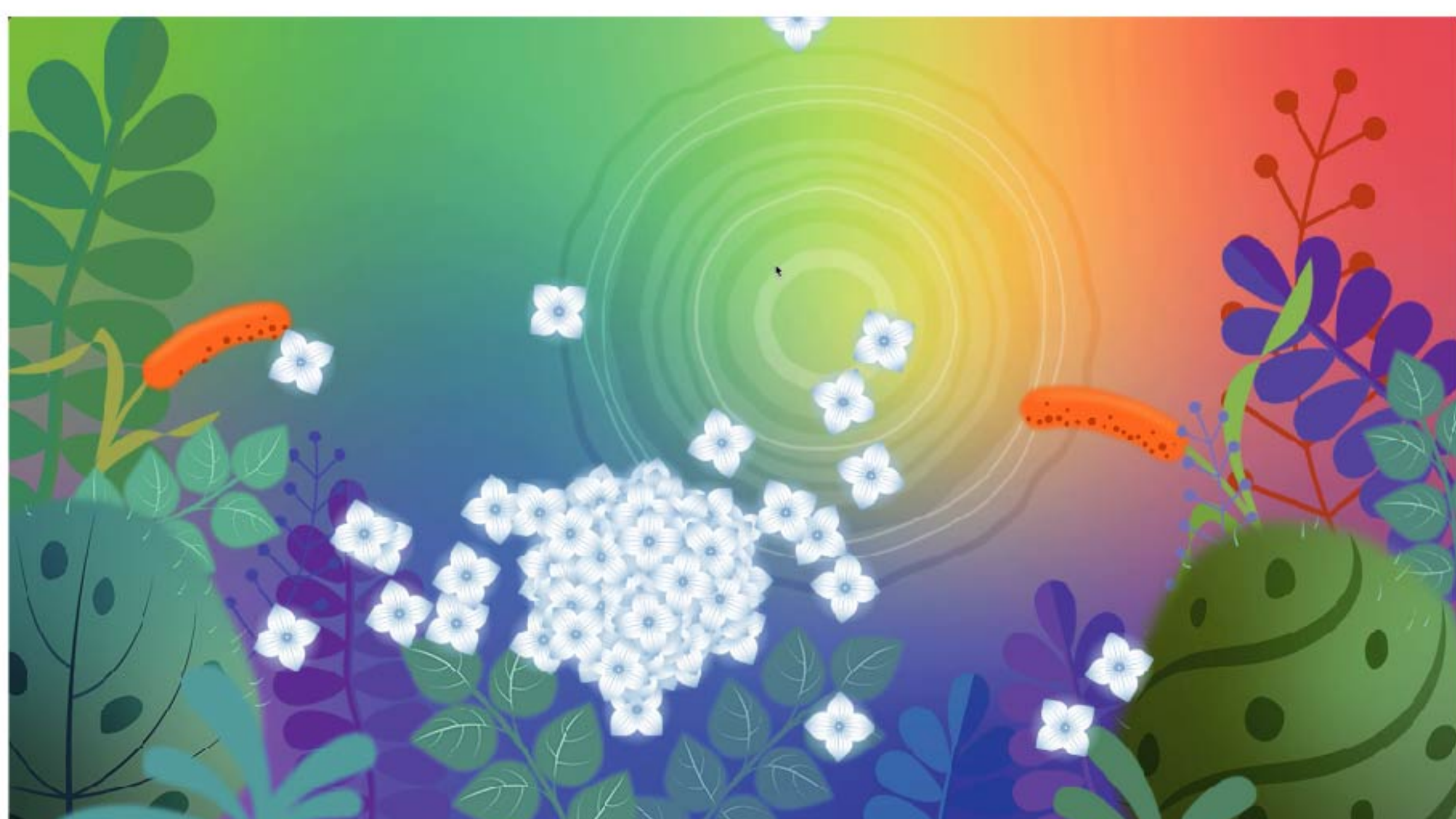
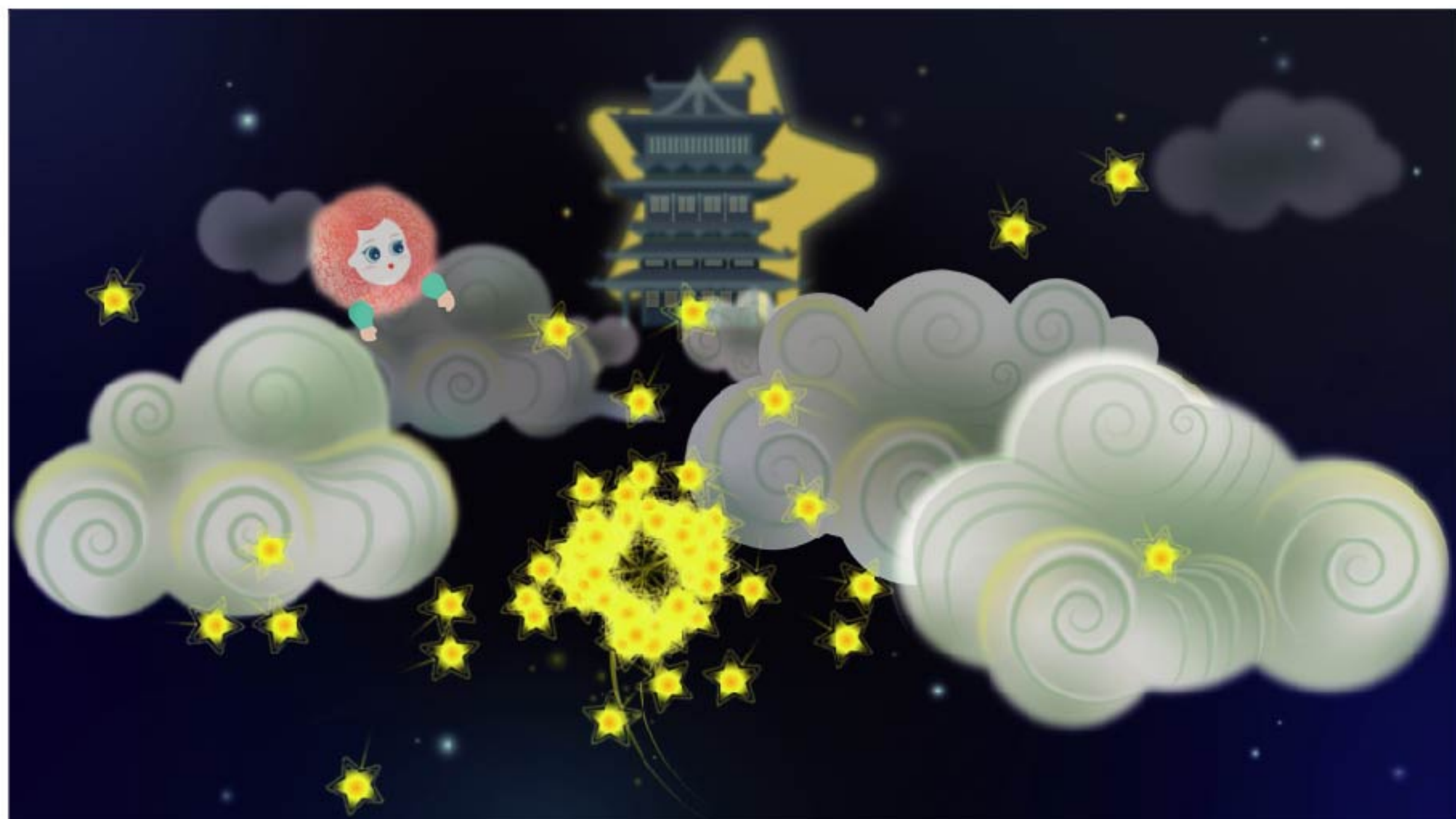


蘭 欣蔚
LAN Xinwei



小児喘息を患う子どものための
AR 絵本

インタラクティブ空間コンテンツ

紙、絵本、センサー、投影、スチレンボード、
インタラクティブ



小児喘息を患う子どものための AR 絵本 & インタラクティブ空間コンテンツ

「赤いタンポポちゃん」と題した AR 絵本 & インタラクティブ空間コンテンツは、小児喘息を患う子どもさんとご家族を対象とし、心身の健康管理、喘息という疾患への理解、そして呼吸訓練を目的とした作品である。

小児喘息は治療期間が長く、喘息の親子に心身の大きな負担となる。喘息患者は正しい健康管理が大切で、自然治癒の可能性もある病ことを知った。そこで、喘息についての理解、日常の健康管理、ストレス発散等を考えた上で、AR 絵本とインタラクティブ空間の2つを組み合わせたコンテンツ作品の制作を行った。

AR 絵本の本の内容は、主人公の赤いタンポポちゃんが自らの特別能力を見つけ、特異な能力と調和して付き合う物語である。多くのタンポポの綿毛は白くて、赤いタンポポは珍しく、そして可愛らしく魅力がある。喘息を患った子どもの健康への願いを赤いタンポポのキャラクターに重ねた。AR 絵本では、喘息発作の状態、発作時の対応、健康をキープする方法を紹介する。親子は、一緒に絵本を読んだり AR で遊んだりして、喘息に対する日常の健康管理を身につけ、劣等感を克服し、積極的に向きあうことを促す。そして、喘息の親子が読むだけでなく、普通の子どもたちもこれを読んだら、周りの喘息を患う人の気持ちや健康について考える手助けにもなると思う。

インタラクティブ空間では赤いタンポポちゃんの絵本の中の世界から、3つシーンを選び、扇子や風車や投影などで気流の視覚化についてのインタラクティブデザインを作った。本来は、直接口から機器に息を吹き込むブローセンサーを使用する予定であったが、コロナ禍での感染リスクを軽減するため、フローセンサーの使用を諦め、扇子と風車というメタファーでの表現とした。

このデザインのターゲットは喘息の親子だけではなく、コロナ禍の皆様向けのユニバーサルデザインでもある。調査によれば、喘息の患者さん(親子)には、呼吸に対する心の負担がある¹⁾。それゆえ、コロナ禍で、家にこもる時間が増え、自然に触るチャンスが少なくなった。不安、恐怖、落ち込む、などの陰性感情が多くなり、それが持続されると免疫力はダウンする²⁾。

また、ここ2年間、皆が外でずっとマスクを付け、呼吸や気流などに不安を持ったが、小さな子どもたちは気流についての認識と感知が足りないと思う。この制作を通じて、少しでも恐怖感を和らげ、癒やし雰囲気を作りたい。

本研究は小児喘息を中心に小児慢性疾病全般を対象とし、ユニバーサルとプレパレーションデザインの観点で、親子向けの喘息についての教育と健康管理についての新しい医療システムデザインを試みた。今後、さらに研究を重ねていきたい。

1) 岡田正幸(大阪府立呼吸器アレルギー医療センター小児科())2010)。「喘息患者・家族との関わり方の実際」『Presented by Medical*Online』69巻, 2号, pp257 ~ 260.

2) 日本産業カウンセラー協会。「新型コロナウイルスによる不安やストレスなどの心の問題に対処するために」.

<https://www.counselor.or.jp/covid19/covid19column8/tabid/514/Default.aspx>,
(参照 2022/01/04)